

カメなどのハ虫類

小笠山地域には田んぼの水を確保する目的のため池があり、そこでは人が近づくとぽちゅんぽちゅんという音がよく聞こえました。これは、カメが次々と池に飛び込む水音。日中は水辺で甲羅干しをしていて、敵の気配があると慌てて水中に隠れます。日光浴は食べ物の消化のために体温を高め、紫外線でビタミンDを作り骨格や甲羅を健康に保つために欠かせないのです。エコパの森では主にイシガメとクサガメが見られます。



カナヘビ



ニホントカゲ



ニホンヤモリ



ヤマカガシ



クサガメ

人などの敵にあうと、肛門の周りの臭腺から臭い匂いを出すので、「臭いカメ」からクサガメの名前が付いた。実は 300 年程前に中国から持ち込まれた帰化生物。

イシガメ

日本に昔から暮らすカメ。池だけでなく河川にも暮らしている。黄色い甲羅が特徴。各地で減少。

コラム

イシカガメって何？

イシガメとクサガメは別属の種類ですが、同じ池で一緒に暮らしていると、交雑（結婚）して雑種のイシカガメが生まれることがあります。エコパ建設前の小笠山丘陵のため池調査では、イシカガメが平均して1〜2割もいて驚きました。



シマヘビ

カエルにとって浅い池は結婚の大切な場所で、森の中からたくさんのカエルが集まります。産卵が終わるとそこに大量の卵が残され、オタマジャクシでにぎやかになります。おもしろいことに、カエルたちは種毎に繁殖期をずらして、水辺を使いまわしているのです。アカガエル類はまだ水の冷たい1月頃から、ヒキガエルは3月から、シュレーゲルアオガエルやトノサマガエルは5月からというように、浅い水辺を順番に利用することで、たくさんの子孫を残しています。

わるとそこに大量の卵が残され、オタマジャクシでにぎやかになります。おもしろいことに、カエルたちは種毎に繁殖期をずらして、水辺を使いまわしているのです。アカガエル類はまだ水の冷たい1月頃から、ヒキガエルは3月から、シュレーゲルアオガエルやトノサマガエルは5月からというように、浅い水辺を順番に利用することで、たくさんの子孫を残しています。

トノサマガエル

田植えされた田んぼで産卵し、田んぼで育つカエル。県内各地で消失し、エコパのビオトープでも見かけなくなっている。



ヤマアカガエル

冬の田んぼの水たまりや浅い池が産卵場。1～2月に鮮やかな婚姻色で結婚し、再び冬眠にもどる。県内各地で急激に減少している。



ニホンアカガエル

ヤマアカガエルと生態はほぼ同じ。静岡県の絶滅危惧種になっている。



アズマヒキガエル

通称ガマガエル。日本在来のカエルの中で最大。森の中でミズや昆虫などを食べて育つ。3月中旬に水辺に集まり、結婚する様子は「かわず合戦」と言われる。

ヒキガエルの卵



アカハライモリ

水田地帯に普通にいた。赤い腹は敵を驚かせるため!?



シュレーゲルアオガエル

全身が鮮やかな緑でアマガエルよりずっと大きい。オスが美しい声でメスを誘い、水際に泡で包まれた卵塊を産む。

池の中には日本の水田地帯を代表する淡水魚であるギンブナ、ミナミメダカ、ドジョウなどが暮らしています。全国の絶滅危惧種に登録されているホトケドジョウ、ミナミメダカが、安定して残っています。身近な田んぼや小川からすっかり姿を消しているギンブナもここでは見られます。



ミナミメダカ

水面近くを群れて泳ぐ。初夏になるとオスはダンスを踊り、メスを抱いて産卵させる。メスは水草などに卵を産み付ける。1999年に環境省は絶滅危惧種に登録して、人々を驚かせた。静岡県でもかなり珍しい魚になっている。



メス♀



オス♂

コラム

おそろしいのは外来種、それとも...

日本の淡水魚やトンボなどの水生生物にとって、大型で肉食のアメリカザリガニとウシガエルは怖い天敵だ。昔の日本にはこれほど強力な捕食者はいなかった。しかし、恐いのは外来種だけではない。水辺をコンクリートで固めたり、農業や洗剤によって水質を汚染したりする人間の活動も水辺の生物を減らす大きな原因だ。

ほしくしゃ 捕食者はいなかった。しかし、恐いのは外来種だけではない。水辺をコンクリートで固めたり、農業や洗剤によって水質を汚染したりする人間の活動も水辺の生物を減らす大きな原因だ。



ホトケドジョウ

里山の小川が主な生息地で、山際の湧き水などで産卵する。田んぼでよく見られるドジョウと異なり、ずんぐりした体型でひげの本数は8本。絶滅危惧種。



タモロコ

水田地帯の小川や池に多い小型のコイ科淡水魚。よく見ると1対のひげがある。



ドジョウ

体は細長くぬるぬるして、つかみにくい。大物は20センチほど。ひげは10本。

ギンブナ

日本で最も普通の魚であったが、今や珍しい存在。コイの様なひげはない。ウロコが金色に輝く。





オニヤンマ

にほんいちおお
日本一大きなトンボ。
あさ なが たまご う
浅い流れに卵を産む。



キイトンボ

はる なつ みずくさ おお いけ
春 夏に水草の多い池で
み
見られる。



チョウトンボ

チョウのような
おお はね も
大きな羽を持つトンボ。
ふか みずくさ おお
深く水草の多い
みず べ この
水辺を好む。



ギンヤンマ

なが みず べ おお
流れのない水辺に多い。
オスがなわばりをつく
さんらん とき
産卵する時もメスを
はな
離さない。

エコパの森には昔からため池がありましたが、さらに競技場の周辺に調整池が造られました。ビオトープの池でも、水辺の大好きなトンボ類がたくさん飛んでいる様子が見られます。大きくて深い池は増えましたが、さらさらと流れる小川などの流水や小さな水たまりなどの湿地は限られています。どんなトンボが暮らしているかな？



ショウジョウトンボ

めだま あし ぜんしん
目玉や肢まで全身
真っ赤なトンボ。
あざ あか
鮮やかな赤はオス。



ミヤマアカネ

わ みず なみず べ さんらん
湧き水などの水辺に産卵。
はね こくはん とくちよう
羽に黒斑が特徴。

水辺の自然 ⑤

水生昆虫 (ゲンゴロウやアメンボの仲間)

水辺の生き物の減少は世界的な傾向ですが、日本でも心配です。
トンボ類などの他に、成虫になっても水辺を離れない水生昆虫(ゲンゴロウやアメンボの仲間)が特に注目されます。エコパの森には水質汚染や農薬の影響を受けない大きな池がたくさんあるので、県内で減り続けている水生昆虫を守る大切な拠点として期待されています。



タイコウチ

タガメの仲間。腕を上下に振る様子から名前がついた。
死んだふりをする。(左の写真)

コシマゲンゴロウ



体長約1センチ



シマアメンボ

冷たい湧き水などで見られる。
細長い形でないアメンボ。

マツモムシ

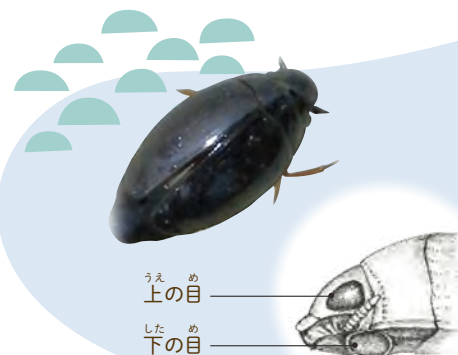
水面の裏側をあお向けで泳ぐ。
体長は約13ミリ。

ミズカマキリ

陸上のカマキリにそっくりな形。実はカメムシの仲間。
とがった口を持つ。体長は約5センチでメスが大きい。

コオイムシ

メスがオスの背中に卵を産み付け、オスは背負って子育てをする。
卵からふ化した子ども(約5ミリ)は親と同じ姿。
5回の脱皮をして親の大きさ(約2センチ)になる。



コラム

ミズスマシの4つの目

里山の水溜まりでよく見られたが、今では珍しい水生昆虫。水面をくるくるとせわしなく泳ぎ続けているのが特徴。
水上と水面下を同時に見られる4つの目をもつことで知られる。体長は約7ミリ。

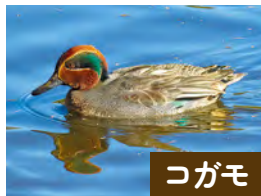
が美しいだけでなく、双眼鏡を使って観察すると驚くほど特徴的な色・模様を持つ個性的な種類が多いです。静かに水辺に近づいて観察しよう。



セグロセキレイ



カルガモ



コガモ



ヒドリガモ



マガモ

カモ類

ビオトープの池や調整池には季節ごとによく訪れる野鳥がいます。野鳥の多くは鳴き声



アオサギ

エコパの森の一角にアオサギのコロニー（集団）がある。ため池の周囲の森をめぐらして、木が実てくれている。



カワセミ

水辺の宝石と呼ばれ、コバルトブルーの体色が印象的な人気者。水面を見下ろす木や桟橋に止まって一瞬にして池に飛び込む魚捕り名人。池に飛び込んで魚を捕まえるくちばしが大きく、その形が最新の新幹線のモデルになった。



カイツブリ

人の近づけない大きな池で繁殖し、遠くからケレケレという大きな声が響き渡る。アシなどの水草を集めて水面に浮き巣を作り、子育てをする。



コラム

浮島でバンを守れ

額からくちばしにかけて鮮やかな赤が特徴の鳥。あし原に巣を作ったのでヒナの誕生を期待したが、大雨で巣が水没して失敗。そこで、自然塾の子どもたちが浮島を作ったところ、浮島の上に巣を作り無事子鳥が育った。

水辺に特有に生えている樹木は雨などの後に、根元まで水没することもあり、通常の木では根が呼吸できず枯れてしまいます。水辺に強い性質の木はヤナギやハンノキの仲間が代表的。草にも水に強いものがあります。水面上に葉や茎が伸びたアシやミクリ、ヒメガマ、水面に葉を広げるヒシ、スイレンや、水際の湿った場所にイグサやカヤツリグサの仲間が生育しています。



ヤナギ

(カワヤナギ、ネコヤナギ、アカメヤナギなど)

柳の仲間は水に強く、切った枝を水に浸けておくと数日で根が生えてくる。



雌花



雄花



ハンノキ

柳と同様、水に強い樹木で、腐りにくいよう幹や枝に脂分が多いので、薪にするとよく燃える。



ヒメガマ

フランクフルトソーセージのように見えるものはガマ類の実で、風に乗って散布される小さな種が何万と付いている。



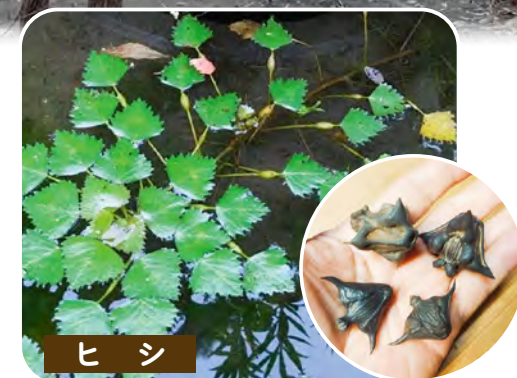
アシ

イネ科の植物で地下茎を使って水際に広がっていく。湿地を代表する生き物。



ミソハギ

湿地に生え、夏に小さな花をたくさんつける。茎の断面は四角、花弁は6枚。



ヒシ

水面に顔を出した葉っぱの一枚一枚が菱形。池底に根を張り、水面に向かって伸びた茎の先に葉を広げる。ヒシの実には忍者が「マキビシ」に使った。